

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293600043		
法人名	医療法人社団 雅厚生会		
事業所名	グループホームこまくさ(ユニット1)		
所在地	千葉県印西市草深137-1		
自己評価作成日	令和5年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube
訪問調査日	令和5年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とご家族様が安心して暮らせる空間作りを目指し、笑顔がある生活を送れる様に支援しております。併設のクリニックと連携し身体合併症のある入居者様も安心して生活出来るように支援しております。コロナ禍で外出制限がある中で、工夫した行事や手作業を多く取り入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で全体での外出行事や地域行事への参加などは難しい一年となりましたが、ホーム内で楽しめるレク活動や季節行事を工夫して実施し、ホーム内でも楽しく快適に過ごせるように職員が一丸となり取り組んでいます。春のお花見や母の日や父の日のイベント、敬老会などの季節行事のほか、出前を取り外食気分を楽しんで頂いたり、町会から頂いたさつま芋を使用してホーム内で芋ほり大会を開催するなど、行事やレク活動を充実させています。コロナ禍でもホーム内で楽しく過ごせるように、職員が多くのアイデアを出して、精力的に取り組む、利用者の生活の活性化に向けて一丸となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を事務所に掲示して基本理念に沿って業務を行っている。身体合併症がある入居者様も安心して生活出来るように同法人のクリニックと連携して支援をしている。	ホーム全体で利用者、職員が安心して笑って過ごすことができるホームを目指し、全体で一丸となり取り組んでいます。ホームの基本理念を事務所に掲示して職員間で常時確認できるようにして全体で共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの活動を受け入れている。運営推進会議のメンバーに高齢者クラブの会長や民生委員が入っており、地域の行事に参加させて頂いている(コロナ禍の為現在は中止している)	コロナ禍のためボランティアの受け入れや地域行事への参加は難しいですが、これまで交流のあったギターサークルの方からDVDを頂いたり、高齢者クラブの会長とも連絡を取り合い地域とのかかわりが継続できるように努めています。	今後に向けては少しずつ地域とのかかわりも再開していく予定としているため、地域資源などを効果的に活用して利用者の生活の幅が広がることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフがキャラバンメイトの講習を受けて認知症サポーター養成講座の活動をしている。高齢者クラブや自治会に依頼され認知症や介護保険の講座を行っている。(コロナ禍の為制限あり)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、事業所の現状報告をし、地域の情報を収集している。会議で上がった意見をサービスに反映させられるようにしている。	運営推進会議についてはコロナ禍の影響で書面開催という形式で実施しています。ホームの現状を書面に残し、写真に収めた活動の様子も併せて出席予定者や市の担当課へ送付し、必要に応じて意見なども聴取しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、顔の見える関係作りに努力している。介護保険改正時や加算算定時の不明な点を相談、報告している。	市の担当課とは運営上相談が必要な際や指定更新時の書類提出の件で連絡を入れ必要な指示を仰ぐことができています。運営推進会議の議事録も定期的に提出してホームの現状などを議事録を通して報告しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルの作成と身体拘束排除宣言を事務所に掲示し、身体拘束の具体的な行為を記載してスタッフに周知している。玄関の施錠は防犯の為に行っている。	「身体拘束排除マニュアル」に基づき日々適切な支援を行っています。法人内の「身体拘束廃止委員会」にホームからも委員を選出して各事業所の現状報告や虐待発生時の通報方法についてなどを確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者権利擁護、身体拘束廃止研修を受講している。受講後は職員会議で研修報告をして情報を共有している。事業所内での虐待が見過ごされない様に特にスタッフの言葉遣いに注意をしている。		

グループホームこまくさ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、スタッフが高齢者権利擁護、成年後見制度の研修を受講している。日常生活自立支援については今後学び、支援に役立たい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず契約書をご家族様に説明して確認して頂き同意を得ている。改定の際は必ず書面で説明をし理解、納得を図っている。不明点は電話で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談担当を設置している。入居時に外部の苦情相談窓口がある事を説明している。ご家族様からの意見を面会時に伺い要望等を反映させている。	家族からの意見や要望については面会に訪れた時に直接確認するほか電話連絡時にも意見などを伺い、要望等が出た際には迅速に対応しています。利用者本人からの意向や要望は日常会話の中から収集し日々の生活の中で反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回職員会議を開催して、意見交換を行っている。毎日の申し送りの中でも意見や提案を聞き、反映するようにしている。	職員からの意見や提案については日常的な確認のほか、職員会議を2ヶ月に一度開き会議の中でも意見や提案を聞く機会を設けています。職員が気軽に上層部に意見や提案を表出しやすい環境づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常勤職員は公休を消化して、有給を取得出来るように勤務調整を行っている。非常勤職員は勤務日数や勤務時間に柔軟に対応し働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する研修の要望を聞き、要望に沿った研修に行く機会を作っている。研修に参加出来るように勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

グループホームこまくさ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に可能な限り本人にも見学して頂き、家族を含めて話を聞きアセスメントをしている。話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時やサービス開始時は電話だけでなく、直接お会いしてお互いの表情を見ながら安心して話ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話に耳を傾け、必要としているサービスの見極めに努めている。必要時は他のサービスの提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事(洗濯畳み、食器洗い、テーブル拭き等)ができる方にはして頂いている。スタッフと一緒におやつ作りを行っている。利用者様が自ら家事作業を申し出て下さるような関係作りにも心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面開時に近況報告をし、また毎月のお手紙で状況を知らせ家族と情報を共有するように努めている。手紙で間に合わない事は電話で必ず連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係継続は望ましい事であるので、出来る限り支援に努めている。面会等は制限なく支援している。ご家族様の協力のもと外出や外泊の支援もしている(コロナ禍の為中止中)	馴染みの人や場所との関係継続に向けた支援では、今年度はコロナ禍の影響で馴染みの場所への外出は控えていますが、年賀状や電話のやり取りなどを通して知人等との関係が途切れないように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症による易怒誠也性や他者とのトラブルになる恐れのある方を把握して席を配慮している。個々の性格やADLを把握して良好な関係が築けるように支援している。		

グループホームこまくさ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて在宅復帰の支援や居宅介護支援事業所を紹介している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人からの情報を基に本人の様子を観察し意向の把握に努めている。普段からコミュニケーションを図り日々の様子からもキャッチ出来るように努めている。	利用者の思いや意向については、日常会話から収集するほか、ケアプラン作成や更新時のアセスメント時に現状及び課題等を収集し、ケアプランに反映し、利用者本位の支援が図れるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には本人や家族、担当ケアマネから生活歴や暮らし方を聞き把握するようにしている。その情報は書面にしてスタッフが情報共有するようにしている。日常の会話の中からも情報を得る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日心身状態の把握に努め、申し送りや記録を利用して情報の共有に努めている。変化があった場合は柔軟に対応しその時に合った過ごし方をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメント、担当者会議を定期的又は必要時に行っている。会議だけでなく必要時は、申し送り時に課題やケアについて話し合い意見やアイデアを反映させている。	アセスメントで収集した現状や課題等を踏まえて担当者会議の中で職員家族の意向を確認し総合的な意見を踏まえケアプランを作成しています。ケアプランの達成状況については、計画実施表に記録すると共に、毎月のモニタリングで確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他に、特記すべき事は業務日誌に記載し情報共有に努めている。ケアの変更時はスタッフ間の伝達ノートや申し送りを利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や状況を把握して法人内の関係機関と連携し、柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		

グループホームこまくさ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の高齢者クラブと合同で行事を行う事がある。自治会や近隣の幼稚園から行事に招待される事があり参加している(コロナ禍の為制限あり)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設のクリニックの受診と必要に応じて他の医療機関や以前からのかかりつけ医の受診が出来るように支援している。受診以外にも必要時は併設のクリニックの医師に報告をして指示を仰いでいる。	併設のクリニックと日頃から連携を図りながら、利用者の急変時にも迅速に対応できる体制としています。2週に一度主治医である、クリニックの院長による訪問診療もあり、利用者は必要時に必要な医療を受けることができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と普段から情報を共有し、状態に変化等があった際は報告して指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には診療情報提供書や介護サマリーを医療機関に提供している。退院時には看護サマリーを頂き情報の交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」について説明し同意を得ている。状態が変化してきた際にはその都度話し合いの場を設けている。地域の関係者として併設のクリニックの医師、看護師と共に支援している。	重度化した場合や終末期の方針については契約時に「入居者の重度化及び看取り介護に関する指針」を説明し、家族と同意を取り交わしています。今年度も家族や主治医と連携し、4名の方をお看取りしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時は併設のクリニックに連絡して指示を仰ぎ、夜間はナースオンコール対応がある。定期的な訓練はしていないので今後の課題である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災と水害の避難訓練を行っている。地域との協力体制として徒歩5分圏内の職員に協力要請をしている。	災害に備えた取り組みでは、4月に火災を想定した訓練を実施し、11月には大雨による水害を想定した訓練を実施しています。また法人内の他事業所とも連携して災害時には協力し合える体制を築いています。	

グループホームこまくさ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアにたいして無理強いせず個々の認知面での理解の程度や精神面を観察考慮しながら、個々に合った声掛けをしている。拒否の強い方にはタイミングを見計らいながら介助を行っている。	利用者のへの対応については職員一人ひとりが適切に対応しており、居室へ入室する際にも、一声かけるほかノックをすることを徹底しています。利用者への声掛けや対応方法についても適宜振り返り、不適切な対応を防いでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方には決めて頂き、出来ない方にはスタッフが本人の思いを汲み取りながら対応している。普段からコミュニケーションを図り気持ちを汲み取る事が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースで過ごせる方には過ぎて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時と入浴後に整容を整え、汚れた衣類はその都度交換して身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共にテーブル拭き、箸のセッティング、食器洗いを行っている。献立をホワイトボードに書き出し知ってもらう工夫をしている。	食事については施設内の厨房で作られた食事がホームに運ばれ、ホーム内で盛り付けをして提供しています。専用のボードに食事メニューを利用者に書いて頂き食事メニューをみんなで確認できるようにしています。季節ごとの行事食なども取り入れて食事の楽しみにつなげています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を観察して記録している。1日の水分量は1000ccを目標としている。水分補給ゼリーを取り入れ水分アップを図っている。状態に応じた食事形態や介助方法を検討し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。個々に合った声掛けや介助方法、物品で支援をしている。毎週火曜日に訪問歯科診療実施。		

グループホームこまくさ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて個々の排泄のパターンの把握に努めながらトイレ誘導を行っている。排泄形態もここに依拠して、また日中と夜間で変えて対応している方もいる。	排泄については定時の声かけや誘導により、トイレで排泄できるように支援しています。定時に声をかけ排泄の失敗を防げるように配慮しています。排泄状況は排泄記録に残しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量1日1000cc以上を目安にしている。腸内環境を整える為に週に2回ヨーグルトをおやつに取り入れている。個々に応じた排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3グループに分けてろーで入浴している。希望が一番風呂に入浴している方もいる。炭酸泉を取り入れ、入浴剤や柚子湯等も行っている。	入浴は週2回のペースで利用者のその日の体調を考慮し入浴して頂いています。入浴中は職員が介助につき安全面に配慮しています。利用者の状態に応じてシャワー浴での対応や機械浴での対応も行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を多くして夜間は良眠出来るように支援している。日中に傾眠が強い方や体調不良の方は状況に応じて休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイルしてスタッフが見て情報共有出来るようにしている。薬の変更や追加時は伝達ノートに記載して周知に努めている。薬によってはバイタル測定や様子観察の指示を出している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月季節のイベントを計画して実施している。毎日16時～レクレーションを行っている。家事等の役割お願いしている方もいる。嗜好品は自己管理出来る方にはして頂いている。スタッフが管理している方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出出来るように支援している。ご家族の協力を得て外出している方もいる(コロナ禍の為制限中)	コロナ禍の影響もあり今年度は外出や外食行事は自粛しています。今年度はホーム内での生活がほとんどですが、天候の良い日にはホームの中庭で日光浴を楽しめるようにしています。今後は感染の状況を見て外出機会も増やしていくことも検討しています。	今後は感染の状況を見て可能な限り外出できる機会を増やしていくことを検討しており、戸外活動の充実化により利用者の活動の幅の拡充につながることを期待します。

グループホームこまくさ(ユニット1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお小遣いを持って買い物へ出かける支援をしている。個々の力に応じて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方にはやっています。年末にはご家族様に年賀状を書く支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間で不快が生じない様に配慮しているが、コロナ禍で換気を行う為に室温に関しては不快と感じる方もいるようだ。食堂と居間には季節感を感じて頂きたく、季節の物や装飾品で工夫をしている。	季節に合わせた装飾品を掲示するなど季節感が感じられるように各ユニットで工夫しています。掃除も日々徹底するほか、手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気も定期的を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が同じテーブル席で過ごせるようにしている。リビングにはソファ一席もあり好きな場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力を得ながら、本人が使用していた物や好きな物を持参して頂き、安心して過ごせる工夫をしている。	居室の掃除も定期的に行い清潔保持に努めるほか、居室内のレイアウトについても利用者、家族の意向を大切にしています。馴染み品の持ち込みを可能として居心地よく過ごせるように配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を掲げ、トイレや浴室前には大きく表記して場所の認識が出来るように配慮している。		